キャンパスライフ詰まってます!!
大教生の声を届けるフリーペーパー

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY

DAIKYO PRESS

vol.12
大阪教育大学
学生広報
DAIKYO PRESS
vol.12
2015年1月発行

みんなの心に残る○○は?

昔こんなことがあったから… あの人に出会ったから…
人それぞれに、大切な経験があるはず。
大教生の「今」を支える大切な思い出がつまっています!

朴 佳南

長谷川裕也

中島由紀

鈴木祥紘

北村早紀恵

丸尾周平

松尾健太郎

豊田彬義

松浦祐樹

あの日の自分に!!!➡タイムスリップ

誰にでも思い出の一場面があるはず。このページでは、5人の在学生に当時へタイムスリップしてもらいました。テーマは、「成長」と「達成」。同じ大学で学ぶ仲間の、「成長」と「達成」を一緒に見てみましょう!

鈴木 祥紘さん　中学英語 1回生

1年前も同じ場所で撮影しましたが、当時よりも20kg痩せました。大学に入って何か目標が欲しくて…自分に甘いところを直したいという思いから行き着いたもの、それがダイエットだったのです。一念発起して夜更かしをしない、夜食を控えるなどの規則正しい生活を過ごしたら、それだけで痩せました!でも規則正しいと一言で言っても、簡単なようで結構難しいのです。痩せると動きやすくなって、テキパキと活動するようになりました。それに女の子が自分に優しくなった気がします!目標まであと5kg、僕の戦いはまだ続いています!

ダイエットでよくあるポーズ。ズボンがかなりブカブカ!

撮影の日はテニスサークルの活動があって、かっこよくスポーツウェアで登場。普段もテニスで身体を動かして、スリムになった体型を維持しているそうです!

丸尾 周平さん　情報科学 2回生

中学・高校時代は、委員会活動など勉強以外で友人に勝とうと頑張りました。文化祭や体育祭を中心になって作り上げ、成功したときの達成感がたまらなくて、大学でも生協学生委員会に入りました。保護者の前で色々な説明をしたり、新入生と話したりする機会が多いのですが、中学・高校時代に朝礼で全校生徒の前で話した経験のおかげで、人前で話すことが苦手な僕でも、今では大勢の人の前でしっかり話せるようになりました。昔に比べて、ですけどね(笑)

所属しているサークルでギターを弾く姿。小学校5年生の時からずっとギターをやりたくて、大教でやっと念願を果たせたそう。これもひとつの「達成」ですね!

松尾 健太郎さん　中学音楽 3回生

母校の音楽部で合唱と出会ったのが、音楽の道に進んだきっかけです。
そこで、みんなで音楽を作っていくことと、目標に向かって努力することの楽しみを知りました。今では、音楽を作っていく楽しみから自分自身抜け出せません。
当時の目標だった、この大学への合格は無事達成しましたが、教員になって、みんなで音楽を作るという合唱の楽しさを伝えていくことが、今一番の目標なのです。だから、今はまだ、それを達成するための成長段階なのです!

番外 昔と全然変わらない!?

山本 圭佑さん　教育科学 2回生

古川 智之さん　芸術美術 3回生

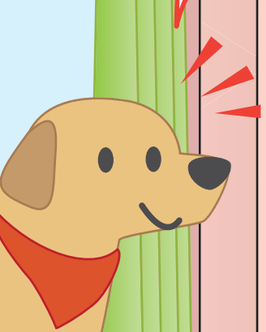
今度はあなたの番。みなさんも、アルバムを開いて自分の過去を振り返ってみませんか。
今だからこそ分かる自分の原点や、あのときには気付かなかった自分の成長が見えてくるかもしれません…!

障がい学生修学支援ルームで輝く大教生!

支援活動に携わる3人の大教生を取材しました!障がい学生修学支援ルームのこと、もっと知ってみませんか?

盲導犬へのご理解とご配慮を

視覚障がい学生が盲導犬と
共に通学しています。
許可なく声をかける・見つめる・手を振る・
なでる等、盲導犬の興味をひく行為は
お控えください!



支援ルーム紹介

どんなところ?

聴覚障がい・視覚障がい・肢体不自由等を有する学生が支援を利用し、100名を超える学生が支援協力にあたっています。
交流スペースは多くの学生が立ち寄り、アットホームな雰囲気です。

支援って何するの?

講義中の音声を、パソコン等を用いて文字化します。
他に手話通訳や映像教材への字幕挿入、教育実習校等と大学をネットでつなぎ、実習中の支援利用学生のサポートなども行っています。

気軽に参加できるイベントは?

火曜日昼休みには、みんなで楽しく手話を学ぶ「手話わいわい(しゅわいわい)」を開催。お昼ご飯を食べながら誰でも参加できるイベントです。

お願い

静かな講義環境は、支援の第一歩

支援協力学生は充実したサポートを進めるため、講義の一言一句を聞きもらさないよう頑張っています。
講義中の私語は控え、静かな講義環境を保つことができるよう、ご協力ください!

支援協力学生

北村(きたむら) 早紀恵(さきえ)さん 養護教諭2回生

支援活動を始めたきっかけは何ですか?

友人に誘われたのがきっかけです。
私の通っていた小学校には難聴学級があって、難聴の友人とコミュニケーションをとるために小学1年生から手話を覚え始めたんです。
そのとき身につけた手話を活かして手助けできることがあるならと思い、一回生の夏休みから活動を始めました。

やりがいは何ですか?

手話通訳をしていて、聴覚障がいのある学生が『うんうん』と頷いてくれると、『通じた!』とうれしくなります。講義中の話し合いでも、私の手話を通して同じ情報・空気感を共有し笑いあえることが楽しいですね。

支援活動を通して、どのような内面の変化がありましたか?

障がいのある人と密接に関わるようになったことで、身の回りの生活でそういった人たちへの配慮を自然とできるようになりました。障がい者も健常者も含め、すべての人にとってわかりやすい情報提供の方法は何か、ということを日々考えています。

北村さんにとっての今後の課題は何ですか?

自分の役割を理解して、現場の意見に忠実に頑張っていきたいです。支援利用学生や他の学生のニーズは聞かないとわからないので、そういうことを気軽に話してもらえる人になりたいですね。

支援協力学生

朴(ぱく) 佳南(かなみ)さん 小学数学4回生

支援活動を始めたきっかけは何ですか?

もともと授業内容を要約することが得意だったのですが、一回生の終わりごろに支援協力学生募集のチラシを見て、自分の得意なことが役立つなら…と思い、始めました。

やりがいは何ですか?

充分とは言えないまでも、自分が熱意をもって取り組んだ支援に対して、支援利用学生の方から『ありがとう』と言われるとうれしいです。

支援活動を通して、どのような内面の変化がありましたか?

障がいに対する考え方や関わり方が変わり、支援の心構えがわかってきました。以前は支援利用学生に対して『支援してあげないと』という気持ちが強かったのですが、利用学生との関わりが深くなる中でそういった上からの目線ではなく、横のつながりを持てるようになったと思います。

朴さんにとっての今後の課題は何ですか?

支援利用学生ともっと距離を縮めたいので、手話などを覚えていきたいです。

支援利用学生

豊田(とよた) 彬義(あきよし)さん 特別支援1回生

豊田さんは、日常生活で困ったことなどはありましたか?

普段歩くときは耳の代わりに目で危険を察知しますが、車などが後ろから来たときにクラクションが聞こえません。
今まで危ないこともたくさんありましたね。

支援を利用してみて、どうですか?

聴覚障がい者は健常者とは違い、耳から入る情報が足りません。支援がないと講義の内容がわからなくて単位も取れないので、健常者と同じように講義を受けられるのは素晴らしいことです。いつも助かっています。

手話ができる人がもっと増えるといいですね。

僕としては、『手話であいさつ』だけでも広まってくれるとうれしいです。

興味のある人は、いつでも気軽にルーム(C6棟2階)に来てくださいね。

I'm aiming to become a teacher.

I want to become a good teacher.

先生、お世話になりました!

私たち、教師を目指しています!

誰にでもひとりやふたり、学生生活の中で思い出深い先生がいるのでは？今回は教師を目指している大教生の今を支える恩師との出会いをインタビューしました。

教養学科 スポーツ専攻 3回生

教員養成課程 社会科教育専攻 4回生

松浦 祐樹さん

中学3年生の頃、サッカー部のキャプテンだった松浦さん。サッカー部の顧問だった先生とのお話を聞きました。

Q 恩師との出会いは?

中学1年生でサッカー部に入部して以来顧問としてお世話になった先生です。第一印象は生徒との距離が近く、気さくな感じでした。自分自身も部員と一緒に練習をするような人だったので、顧問の中でも一番近くで生徒と接していました。今でも帰省した時は近くのフットサルコートを借りて、先生や当時の仲間と一緒にサッカーをしますね。

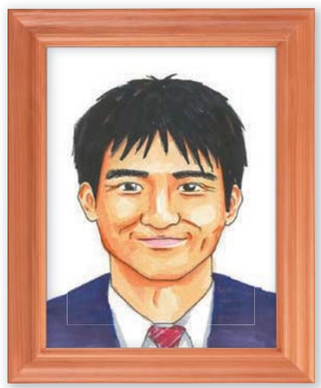
当時の思い出を懐しげに語ってくれました!

Q 思い出に残っているエピソードはありますか?

中学3年生の時に広島県大会で準優勝したことですね。日々の練習の積み重ねを経て市大会、県大会を着々と勝ち進み、満足のいく成績をおさめることができました。試合後半になってくると相手チームはだんだんバテていきましたが、僕らはピンピンしていましたね。きっと、普段から顧問の先生が考えた厳しい練習メニューに耐えながら、長い距離を走っていたおかげだと今では思います。

Q 印象に残っている恩師からの言葉はありますか?

県大会の時に言われた言葉ですね。「今まで指導してきたチームで一番弱い」「市大会止まりのチームだ」など、励ましの言葉よりも厳しい言葉を多く言われました。生徒のやる気が出ると分かって、あえて厳しい言葉をかけていたのか、チーム全体の士気が上がる感覚はありました。



松浦さんの恩師の似顔絵

Q 将来どんな先生になりたいですか?

恩師の先生は生徒との距離が近く、また生徒のことを信頼してくれていました。一生懸命な分、本気で生徒とぶつかることで反発も多くなると思いますが、その先生のように生徒のやる気を引き出せる教師になりたいですね。あとやはり部活動の指導には積極的に取り組みたいです。

Q 先生に向けて何か一言いただけますか?

小学2年生からサッカーを続けてきたけれど、本気で取り組むようになったのは中学生からです。大学でサッカーに打ち込んでいる姿をみてもらいたいです!

中島 由紀さん

春から中学校の社会の教師になる中島さん。今の自分に大きな影響を与えてくれた先生のお話を聞きました。

Q 恩師との出会いは?

高校2年生の時の担任で、2、3年生の時に日本史を教えてもらいました。先生の第一印象は「変わった先生やなぁ」でした。放任主義!という感じで。いちばん印象に残っている出来事は、試験結果の受領書を提出しなければならない決まりがあったのに、生徒に配るのを忘れて「もういいやー」と言っていた…ということです(笑)。他の先生は口うるさく「提出しなさい!」と言っていたのに、そのゆるさに驚きました。

久々の母校へ。中島さんの表情も楽しそう!

Q そんな先生の見方が変わるきっかけは何だったのですか?

進路相談をした時です。大教に行きたいと相談した時に、いつもとは違う真面目な雰囲気でズバズバと自分に足りない所を指摘され、実は自分のことをちゃんと見てくれていたんだな、ということに気づきました。

教育実習で母校に戻ってきた時にはさらに先生の偉大さを感じました。授業ひとつを行うにしても知識が豊富で、たくさん勉強になりました。また、第一印象の「変わった先生」の良さを知ることが出来ました。型にはまらなくても良いんだなと。あえて教師が手を抜き生徒に考えさせ、行動させることが生徒の成長につながるのだと思います。クラス全体の行事などで色々ヒントを与えたくなってもそこをグッと我慢する。生徒自身に考えさせることが、クラスの環境づくりにも繋がると思います。

初めはあまり良い印象ではなかった「放任」…干渉しすぎず生徒に委ねること、が今では私の目標とする教育方針になっています。

中島さんの恩師の似顔絵

Q では改めて、どんな先生になりたいですか?

生徒自身に考えさせ主体的に行動させられるような先生になりたいです。あとは、「ふるさと学習」を取り入れたいと考えています。「ふるさと学習」とは、その土地の産業や歴史と授業を結びつけた学習のことです。生徒にとって身近な地元と、教科書の向こう側だと思ってしまいがちな社会科を重ねた「おもしろい!」「なるほど!」と思えるような授業をしていきたいです。

My Roots マイルーツ マイソウル My Soul

大教生が、影響を受けた
大好きなエンターテイメント作品を
紹介するこのコーナー。

みんなにこの作品を知ってほしい、この感動を共感したい。
あなたのマイルーツ マイソウルは何ですか?

今回はあの英国音楽バンド、
アニメ化・映画化で今話題のあの漫画、この2つを紹介!

Revolver

The Beatlesの7作目のアルバム。ジャケットデザインはクラウス・フォアマン作。全英・全米ともにチャート1位を獲得した。

私はThe Beatles(以下ビートルズ)が大好きです。小さいころから父のCDを聞いたり歌詞を調べたり…ずっとビートルズと繋がってきました。どのビートルズ作品も大好きですが、中でもアルバム『Revolver』は特別です。ジャケットがまず素敵。よく見ると写真のコラージュがあったりしてとてもお洒落ですよね。そしてこのアルバムの収録曲『Here, There and Everywhere』、私が一番好きな曲です。この曲はタイトルにあるように、いつでもあなたに傍にいてほしいというラブソングです。彼女の手、髪、瞳。体の名称を素直に歌詞に表現しているところは、男の人の等身大でロマンチックな心が表れています。傍にいてくれる今が幸せ、ずっと寄り添っていてほしいという歌だと思います。湯船に浸かったときの肌がひらくような、芯から温かくなる感覚。この曲を聞くと言葉では表しきれない優しい気持ちになれます。実は今、私は歌手になることを目指しています。ビートルズが音楽の楽しさ・素晴らしさを教えてくれたからです。この曲のように温かい気持ちになれる音楽を作ろうと頑張っています。

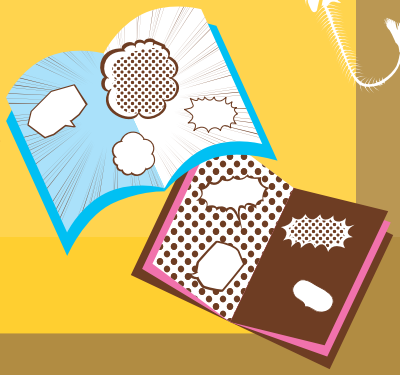
安松千夏さん
小学家政 3回生

長谷川裕也さん
中学理科　1回生

僕が選んだ漫画は『寄生獣』です。この漫画は悲惨な描写もありますが、それによって生と死について考えさせられる深い漫画です。その中で特に印象に残っている場面は、物語中、主人公に寄生したミギーという生物が、生来野生的な感情しか持たないのに、主人公と一緒に過ごすことで人間の気持ちを少し汲みとれるようになるところです。種別の違う者同士でも、理解しあえるところに感動しましたね。僕がこの漫画を読んで思ったのは、相手と理解しあえないと思ったとしても決めつけてはいけないということです。わからないならわかるまで向き合う姿勢を日常生活でも心がけていたいです。この漫画は世代を超えて愛されるストーリーであり、10代で初めて読んでから数十年経ってまた読んだ時、初めに読んだ時と違う新しい見方ができる漫画だと思います。

寄生獣

作者は岩明均。講談社『モーニングオープン増刊』『月刊アフタヌーン』にて1988年～1995年に掲載された漫画。2014年には映画化され、2015年に完結編が公開予定。



連載企画 バトンをつなげ!
大教ステキ学生リレー
★日頃の活動の様子とあわせてぜひご覧ください★

こちらまで! DAIKYO PRESS 検索
http://osaka-kyoiku.ac.jp/_blog/dkp/ E-mail:dkpress@cc.osaka-kyoiku.ac.jp
興味のある人は気軽に連絡してください♪

今号のDAIKYO PRESS フリーペーパースタッフ
岡田(技術)、谷(人科)、浅野(芸美)、角田(芸美)、山住(芸美)、松本(芸美)、楠(芸美)、鈴木(芸美)、中野(芸美)、芝池(人科)、松木田(自研)、闕根(芸美)、山崎(芸美)